

来たぞ！万博。
本市のブースが連日大盛況



修学旅行で SDGs フェスを訪れた土居小学校の6年生

日本各地の魅力を体験できる内閣府主催のイベント「地方創生SDGsフェス」が、5月28日から6月1日に掛けて大阪・関西万博で開催されました。全国から52の自治体に参加したこのイベントで、本市は書道パフォーマンス甲子園を始めとする書道文化や伝統産業である手漉き和紙を紹介しました。オープニングで青柳美扇さんが大書した「情熱」の2文字が掲げられた本市のブースでは、著名な書道家たちによる大筆を使った揮毫体験や紙のまちミツマタ大使の大西満王さんによる手漉き和紙体験、仮想現実の中で書道パフォーマンス甲子園の歴代優勝作品が実寸大で見られるVR体験などが行われ、5日間で3千人以上が書道パフォーマンス甲子園と本市の魅力に触れました。

8月21日のEXPO大会を含め、書道パフォーマンスの万博進出はまだまだ続きます。ご期待ください。

親子と地域がつながる
子育てフェスタに5千人の笑顔



5月25日、しこちゅーホールで「子育てフェスタ」が開催されました。歯科衛生士や薬剤師などの職業体験、働く車の搭乗体験といった楽しい企画の数々に子どもたちは大興奮。また、多彩なグルメが並ぶマルシェは、終日多くの家族連れでにぎわいました。

恒例の「赤ちゃんはいはいレース」では、家族の声援を受けながら、懸命にゴールを目指す赤ちゃんの姿に、温かい笑顔が広がりました。

地域の子育て支援団体で組織する「しこちゅーほこほこネット」によるイベントは、今年で17回目を迎えました。親子の交流の場として、更なる発展が期待されます。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています



新茶の香りと笑顔があふれる 霧の森お茶まつりで新宮茶を堪能



6月1日、収穫したばかりの新茶やグルメ、地元の特産品などが楽しめる人気イベント「霧の森お茶まつり」が、新宮町馬立の道の駅霧の森で開催され、県内外から訪れた約6千人の行楽客が「お茶どころ新宮」を堪能しました。

会場は、新宮茶の即売会や手もみ茶づくり体験、抹茶挽き体験、蛇口からお茶が出てくる「ちやぐち」、そして3月に誕生したお茶の足湯など、まさに「お茶づくし」。

また、紙のまちミツマタ大使の大西満王さんによる手漉き和紙体験も行われるなど、食と産業を感じられるさまざまな企画は、親子連れから大好評でした。

歯磨きでほっこりしてほしい 宇摩歯科医師会が歯ブラシを寄贈



6月4日、宇摩歯科医師会（高橋洋一会長・写真右）から、ひとり親家庭に届けてほしいと、幼児用と大人用歯ブラシ200セットが寄贈されました。

高橋会長は「眠る前のひとときに、親子で一緒に歯磨きをして、仕事や育児の疲れを癒やしてほしい」と、寄贈に込めた思いを話しました。

節目の年に子どもたちを笑顔にしたい 川之江中央ライオンズクラブが遊具を寄贈



5月22日、今年で設立35周年を迎えた川之江中央ライオンズクラブ（川端洋一会長・写真後列中央）から川之江こども園に、動物型の遊具5基が寄贈されました。

子どもたちに喜んでもらいたいと話す川端会長に、出席した41人の年長児は「ありがとうございました！」とお礼を言いました。

障がい児入所施設の子どもたちに 井原工業と愛媛銀行が寄付金



5月29日、井原工業株式会社（井原伸代表取締役）と株式会社愛媛銀行（西川義教頭取）から、令和8年4月の開所に向けて工事が進められている障がい児入所施設（下柏町）で、子どもたちが快適に過ごせるようにと、寄付金30万円が贈られました。

大西市長から感謝状を受け取った井原工業㈱の井原伸代表取締役（写真左）と（株）愛媛銀行の仲本範之常務取締役（同右）

少年空手道の頂点へ 敬心館の選手が全国大会出場



空手道の地区大会で優秀な成績を収めた日本空手道敬心館（三島金子）の3人の選手が、6月28日に大阪市で開催される全国大会への出場を決めました。

6月11日に市役所で出場報告をした選手たちは、大西市長に全国の舞台で活躍することを誓いました。

写真右から、大西泉綺さん（三島南中2年）、大西杜和さん（寒川小6年）、高橋旭陽さん（上分小1年）



その時、命をどう守る？ 地震の揺れをマットで体験

5月22日、市防災士ネットワークなどを対象にした研修会が消防防災センターで開催され、地震の揺れを体験できるマット「YURETA」を使って、激しい揺れの中で身を守る方法を学びました。今後、防災イベントなどでマットの体験会を行いますので、見かけたらぜひ試してみてください。



教えて！内村先生 小学生が新たな紙製品の可能性を学ぶ

6月9日、新宮小・中学校で愛媛大学紙産業イノベーションセンターの内村浩美センタール長による公開授業があり、市内の小学生18人が参加しました。内村先生は、水や熱に強い紙、破れない紙など、次々と生まれる特別な機能を実験を交えて紹介。可能性を感じることの大切さを児童たちに伝えました。

1981年の第4回紙まつりから始まった「紙おどり」。「姫が姫が嶽から」で始まる唄は、川之江地域の名所を紹介する12の詞で構成されています。紙おどり部会（内藤寛子部会長・写真中央右）では、「紙おどりでは、紙の一体感を高めよう」と、新たに三島・土居・新宮地域を唄った6つの詞を追加しました。合併から21年、晴れて「四国中央市の唄」となった紙おどり唄を7月26日の本番で一緒に歌いましょう。

※28ページに関連記事



歌詞公開中▲

紙まつりは7/26(土) 10:00 スタート！
オープニングアクトで初披露します



ちょっとそこまへ
広報
SAMPO

きっともっと
まちが好きになる
紙おどりの唄が
四国中央市の唄に！

涙のあふれ出る所以

先日、しこちゅーホールで映画「書道ガールズ!!わたしたちの甲子園」の上映があり、足を運んだ。15年前の封切り以来、何度も繰り返し鑑賞した映画なのに、終始涙と鼻水が止まらなかった。年齢とともに涙腺が緩んできたことは否めないが、帰宅しながら、その所以に思いを馳せてみた。

「全てはココから始まったんだ！」という思いとともに、足掛け20年近くになる書道パフォーマンスとの関わりが走馬灯のように頭の中を巡り、その折々の出会いや感動が込み上げ、そして、今の事態とも重なる。

その背景の一つが、今日までの本戦大会におけるボランティアでの選手誘導班という役割である。高校生ボランティアと共に、延べ三千人を超える書道ガールズたちを激励し、入場門から会場へ送り出して退場門で達成感を分かち合った。

二つ目は、元日のズームイン!!スーパールの生中継。三島高校書道部が川之江栄町商店街で披露したパフォーマンスの応援に、正月らしさを醸し出すと、たんすの肥やしだった和服に袖を通して臨んだこと。保護者と近隣商店主など



の姿はあったが、三島高校故川之江の人は驚かず、場所が川之江故か三島の人は訪れず、全国放送なのに人は映画のシーンより少なかった。

三つ目が、東日本大震災の復興応援センター派遣で暮らした陸前高田の仮設集会所で、被災した親子や高校生たちを元気づけようと、持参したDVDを上映し、共に涙したこと。震災の年の8月に現地の小学校で開かれた復興イベントで、「再生」と印刷したうちわを配ったりもした。

脳裏によみがえるシーンは枚挙に暇がないが、いつも根底に流れるストーリーは、書道ガールズが「自分たちの力でまちを元気にする！」と青春を懸けて紙と向き合い、筆を走らせるということ。

「再生」は、今まさに日本一の紙のまちに突き付けられた至上的命題である。その再生を託された者の一人として小職も、彼女たちに負けてはいられない。さあ、今年も入場門に立って選手たちを送り出そう！